

(Youth Report) を年に一度発行する。

- ▶ IPPF 若者戦略及び行動計画の作成。
- ▶ 若者オープンファイルの作成。(若者のセクシュアル・リプロダクティブヘルスについての関連論文や最新の情報を集め、若者が利用し易く加工する。)
- 以下のことに対する研究と研究結果の配分
  - ▶ 若者に対する避妊とその持続性についての最新の進歩
  - ▶ 若者自身が成功と認めるプロジェクトを含む若者プログラム
  - ▶ 若者の参加の成功例
  - ▶ 若者及び若者と活動する人たち向けの FPA 若者プログラム及び若者グループについての情報等を提示する若者ウェブサイトの開発

ネットワーキングとパートナーシップ

- 以下に挙げる組織とのネットワーキングとパートナーシップを活性化する。
  - ▶ 若者を対象とし、健康を推進する会社(例えばボディショップ)などの魅力的で、入手可能、持続的なサービスを行なう民間セクター
  - ▶ 若者グループ
  - ▶ 若者組織と若者向けの活動を行なう組織
  - ▶ 若者のための活動をする政府及び省庁やその他の政策決定者
- IPPF ネットワークやその他の NGO で働く若者ボランティアやスタッフの国際・国内プログラムの交換を行なう。
  - ▶ 国際・国内会議やセミナー参加を通じての国際・国内レベルのネットワーキングに若者を巻き込む。
  - ▶ 地域及び国内の政策決定者が利用できる、若者綱領、委員会、協調作成を行なう若者グループを設立し参加する。

## B. プログラム

調査

- 性、年齢、教育など若者の多様性を考慮したセクシュアル・リプロダクティブヘルスニーズや関心など、若者のニーズを把握するために、若者とパー

トナーシップを組んで調査を行なう。

教育

- 以下の要素を含むセクシュアル・リプロダクティブヘルス教育プログラムを開発、実施する。
  - ▶ ピアカウンセリングと教育プログラム
  - ▶ 若者の身体的、心理的ニーズに応える対話型プログラム
  - ▶ 若者に対するセクシュアル・ライツ教育
  - ▶ 若者に対するライフ・スキル教育
  - ▶ 若者プログラムに対する草の根の支援を強化するために行なう、若者の問題についての地域教育
  - ▶ セクシュアル・リプロダクティブヘルス問題について子供達に教育し、家族内でオープンに話し合うことを推奨するための知識と技術を提供する親向けの教育
  - ▶ 若者を引き付ける民間セクターとパートナーシップを結ぶ人々のための情報と教育プログラム
  - ▶ 警察、弁護士、教師、親、および性的虐待問題に取り組む社会サービス等、地域のリーダー向けのワークショップ
- セクシュアリティ、性についての表現、性の楽しみを含む性教育のための詳しいプログラム計画を開発する。その際、カリキュラム開発に若者を参加させる。
- 次の物を含む革新的なセクシュアル・リプロダクティブヘルス教育の開発
  - ▶ セクシュアル・リプロダクティブヘルスのメッセージを組み込んだ若者のための娯楽イベント
  - ▶ 革新的かつ肯定的で安全なセックスのメッセージ
  - ▶ 劇、音楽、美術などの地元の芸術家グループと協力し、セクシュアル・リプロダクティブライツの問題を作品の中で扱ってもらう
  - ▶ レジャー、楽しみ、教育教材などの宣伝サービス
- すべての若者に対して避妊具を配布する等、あらゆる種類のセクシュアル・リプロダクティブヘルス・サービスを提供するユースセンターやユースクリニックの開発及び強化
  - ▶ (可能であれば E-mail も使った) 電話ホットライン・カウンセリングやアドバイスサービスの開発
  - ▶ 若者に対する移動若者サービスやアウトリーチプログラムの提供

➤ (緊急避妊ピルを含む) すべての若者が入手可能な避妊の選択肢を増加

➤ 若い男性に特に焦点を当てたサービスの提供

➤ パートナーと共にサービスを利用することを若者に対して奨励

➤ 若者に対して(中絶サービスを含む) サービスの照会ネットワークを設立

➤ HIV/AIDS と共に生きる若者、性的虐待を受けた者、若者の性犯罪者に対する照会リンクを設立し、サービスと支援を提供。またこうしたサービスの開発に協力者としてターゲットグループからの若者を巻きこむ。

➤ (適切な方法で、適切な場所で、適切な時に、適切な費用で) すべての若者に行き渡る若者のためのセクシュアル・リプロダクティブヘルス・サービスへの利用度を高める。

➤ どのようなサービスが利用可能かを若者が確実に理解できるようにする。

• 若者と協力しながら、ユースフレンドリーなサービスとケアの質の基準をまとめたガイドラインの開発

• 持続的にセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスサービスを行なえるように、若者の他のニーズに見合う収入創出活動を開発する。(例 E-mail やインターネットのアクセスの提供など。)

\* あらゆる種類のサービスとは: カウンセリング、避妊、緊急避妊、中絶、スミアテスト、妊娠検査、STD/HIV 予防・診察・治療・カウンセリング、薬物乱用防止と支援、ゲイ・レズビアン・バイセクシュアルに対する支援とサービス、妊娠と子育てに対する支援とサービス、レイプサポート、虐待サポート、など。

#### トレーニング

若者のためのトレーニング(トレーニングを修了した者には国が認定する修了書を発行する。)

➤ FPA のプログラムの計画、実施、評価の各段階において実施する。

➤ ライフスキル教育とセクシュアル・リプロダクティブヘルス教育、カウンセリングのトレーナーとして育成する。

➤ 資金調達とビジネススキルを習得させる。

➤ 若者のリーダーとして育成する。

➤ アウトリーチプログラムのためのトレーニン

グを行なう。

• サービス提供者のためのトレーニング

➤ 若者のセクシュアル・リプロダクティブヘルスや広い範囲の若者の問題を扱う。また、可能であれば民間セクターとの結びつきを作り、トレーニングプログラムを商品化する。

➤ 若者に対してユースフレンドリーなセクシュアル・リプロダクティブヘルス・サービスを提供する。若者の変化するニーズと関心について最新情報を提供するために、定期的に現職トレーニングを行なう。

➤ 若い男性のニーズに応える。

➤ HIV/AIDS と共に生きる若者、性的虐待を受けたもの、若者の性犯罪者などの特別のニーズに応える。

• 若者や若者グループの可能性・潜在力を認識するために、すべてのスタッフをトレーニングする。

#### 評価

• 以下のように、若者を協力者として参加させ、すべての若者プログラムのインパクトを評価、査定する。

➤ 若者によるサービスの査定

➤ 若者による教育教材とプログラムの査定

#### C エンパワーメントと参加

##### 意思決定

• IPPF/FPA の意思決定過程に確実に若者が完全参加できるようにする。

➤ IPPF と FPA のすべての意思決定組織において、同等の立場と真の決定権をもった(若者ボランティアにより選出された)若者を参加させる。

➤ セクシュアル・リプロダクティブヘルス・プログラムに指針や影響を与える、若者だけからなる意思決定組織を作る。

➤ FPA 内で若者ボランティアに完全に同等の発言権を与える。

##### 若者の参加

• 真の意志決定権、責任、責務をもったパートナーとして、行動計画に置けるすべての活動に若者を参加させる。

• 若者ために若者自身が運営し、具体的に示された枠内で責任力を持つ若者グループを FPA 内に開発する。

- ▶ 若者グループに対して最新の技術的援助を提供する。
- ▶ (持続できるように販売用宣伝スペースを割くなどして) 若者が若者のために開発した出版物を支援する。
- ▶ 若者グループが定例ミーティングを持てるように、ユースフレンドリーなスペースを提供する。
- ▶ 若者グループが、コンピューター、ファックス、コピー、電話、E-mail 及びインターネットやその他の事務用品を利用できるようにする。
- 若者が IPPF/FPA のプログラムで活動することを若者に奨励する、ユースフレンドリーな存在を開発する。
- ▶ 新しい、様々な若者ボランティアを引き付ける娯楽イベントを実施する。
- ▶ FPA と IPPF のあらゆる分野の仕事で活動できるように、若者を雇用する。
- ▶ インターンとして若者を雇用し、トレーニングする。
- FPA と IPPF の活動において若者の業績を促進し、功績を認める。
- ▶ 特定の若者プロジェクトに対して、若いスタッフに俸給(定期的な手当など)を与えるなど、若者ボランティアに動機づけをする。
- ▶ ボランティアの食事、交通費、その他の出費に対する基本的経費を負担する。
- 若者が行なうプログラムの発展を促進する。
- ▶ 様々な関心を持つ若者のための、革新性や創造性を促進する若者活動センターを設立する。
- ▶ 若者が行なうプロジェクトの発展のために技術的支援を行なう。
- ▶ 若者が行なう革新的なプログラムに対して基金を提供する。

#### 若者議会セッション

1998年11月27日チョコ共和国プラハ、ヒルトン・アトリウム、会議フォール

#### 開会の辞

「第4回本会議で、生殖可能年齢に入っていく最大の年代、つまりおよそ1億人の15歳から24歳までの人たちの代表であるあなた方の声を聞け、あなた方から学べることをとてもうれしく思います。そして、あなた方が承認した戦略と決議を受け取るの

をととても楽しみにしております。」

IPPF 会長 Mrs. Attiya Inayatullah

議長による紹介

「この議会は、21世紀への変わり目に当たり、IPPFが若者のセクシュアル・リプロダクティブヘルスのニーズを認識し、若者が情報を基に選択をし、自分達のセクシュアリティを楽しむことが出来るように、IPPF/若者宣言を改正し、実施することを求める。」

ボツワナ IPPF 若者委員会メンバー Leatile Sithole

#### IPPF/若者宣言の発表

「IPPF/若者宣言は様々な文化的背景をもち、世界の各地域から集まった若者により作り出された物である。我々は経験、知識、そして変化に対する熱い思いを持ちよった。若者宣言はこれからの1000年に向けて、若者と若者向けプログラムをエンパワーするのに明確な方向性を確立すべきである、という必要性から作り出された物である。この宣言の中で、我々は若者のニーズ、主導性、考えにもっと応えるべく若者の現実を変えていくことを目的とした。」

ネパール IPPF 若者委員会メンバー Pragya Shah

#### 要点

##### \* サービスと教育

若者の性的活動はますます若年齢化してきている。従って、正確で対応の早い情報とサービスを必要とする。

「我々は移動ユースサービスやアウトリーチプログラムを提供することにより、何かしらの行動を起こさなくてはならない。こうしたサービスは、若者が抱える問題についての知識や認識を強化する。また、すべての若者があらゆる方法でこうしたサービスに確実にアクセスできることを保証しなくてはならない。」(フィリピン 若者委員会メンバー Chris Panales)

「あらゆる種類のサービスおよび、若者が運営する若者クリニックの提供はとても重要である。なぜなら、若者こそが、若者が何を必要とし、何を欲しがっており、どんな風を感じているのかをよく知っているからだ。」

同上

\* 参加

若者が若者向けプログラムのデザイン、実施、評価に完全に参加することが必要で、また計り知れない価値があることはこれまでの経験から明白である。若者を調査や評価に参加させることは、若者に特有、多様、かつ変化していくニーズを把握し、対応していくためには不可欠である。

「(若者のセクシュアル・ヘルスに対する) サービスとそれに必要な物は常に最新の物に変えていかなくてはならない。IPPFは今日の若者が今この瞬間にも変化していることを認識する必要がある。若者は新しい主張を思いつく。これは、未来がこうした挑戦に立ち向かい、変化に適用していくための挑戦である。」(ペルー 若者委員会メンバー Adriana Zumarán)

「我々IPPF若者委員会メンバーはIPPFとすべてのFPAの意思決定組織を通じて若者の参加とエンパワーメントを要求する。この参加は組織内で完全に同等の選挙権と立場によって記されなくてはならない。」(バルバドス 若者委員会メンバー Shantal Munro)

\* 楽しみと自信

IPPF/若者宣言はセクシュアリティ、性的表現、性的楽しみを含んだ性教育に関与する。

「我々は楽しみの定義を広義に使う。それは性的な満足だけを指すのではない。楽しみとは、自尊心、自信、知識、そして自分自身の体に満足している状態を含む。これらはあらゆる年齢の人が、あらゆる種類の人間関係に満足し、喜ぶために不可欠なものである。」(ニュージーランド 若者委員会メンバー Bronwyn Rhodes)

ニュージーランドでのピアエジュケーターとしての自身の仕事に触れながら、発表者はプログラムが「男も女も引き付けられる、革新的で若者受けするもの」であり、「居心地が良く、警戒を抱かせない」環境で行われることの必要性を強調した。

「若者は、居心地良さを感じるほど、多くの情報を吸収するし、普段は聞かないような質問をしやすくなるのです。」(同上)

文化的多様性

若者宣言を実施する際に、文化的宗教的多様性を尊

重する必要があることについていくつかの意見が出された。

「私はイスラム教の国の出身です。私達には結婚外の性的関係を持つ権利がありません。禁止されています。もし誰かがそのような行動をとった場合には、普通の社会生活を送れなくなってしまいます。私は人々に避妊具を使うように推進することは出来ませんが、これは結婚をしているカップルに対してのみ行なえます。もし私が未婚の人たちに避妊具を使うように促したら、私達の宗教では禁止されている行動をとっていることとなります。」(チュニジア 若者参加者 Hana Ben Aziz)

「我々が多様な社会、宗教、文化的背景の持ち主であるということを念頭に置きながら、私はICPD行動計画にある声明を前進させることを提案する。ICPD行動計画に含まれている勧告を実施することが、各国の重要な権利であり普遍的に認められた人権であることは自明の事実である。この声明は4年前のカイロでそうであったように、今日なお有効である。」(パキスタン 若者参加者 Zakeesh Khan)

「もちろん私達は文化的違いがあることを認識しなくてはならない。しかし、現在起こっていること、若者の健康に有害な物を認識すべきである。我々は若者に情報を提供し、若者がどうしたらよいかを選択できるようにしたい。」(フィリピン 若者委員会メンバー Chris Penales)

行動計画

\* ネットワーキング、アドボカシー、資金調達

以下は、若者による若者プログラム運営の成功には不可欠なものである。

「アドボカシーは若者の発言力を強化するのに重要である。我々は若者のセクシュアル・リプロダクティブヘルス・ライツを明確に訴え、推進する若い運動家達を必要としている。」(アメリカ合衆国 若者委員会メンバー Rachel Russell)

この発表者は、世界中に広がる様々な若者向け組織や民間セクターとの間にグローバルパートナーシップを築き、強化している本人自身の活動からの経験を提示した。

「パートナーシップにより、地球規模で認識が広がり、専門的知識の交流が可能になる。その専門的知

識とは、技術的なプログラム支援からアドボカシー、資金調達、草の根の支援をどのように運用するか、ということまであらゆるものがあり得る。」(同上)

#### \* 資金運用

若者が運営するグループに、場所、情報技術へのアクセス、技術的・資金的支援を提供することは、革新的で、信頼性があり、持続的で自立したプログラムを育てていくことにつながる。

ラトビア家族計画協会の若者プログラムでは、海外のドナーからの基金により、46人のエドゥケーター及びホットライン・ワーカーのトレーニングを行ない、パンフレットやリーフレットの出版、そして国内の「クール・ Condom・キャンペーン」を実行することができた。この若者が運営したキャンペーンはメディアを非常に有効に活用し、若い男女両者に受け入れられるセクシュアル・ヘルスメッセージ届けた。

「我々は、IPPFとFPAに、優れた若者の活動を認め報酬を与えるだけでなく、若者プログラムに対する予算を増やすことを求める。」(ラトビア 若者委員会メンバー Ieva Briska)

#### 自由討論

「私はアラブイスラム教グループのメンバーである。アラブイスラム教世界の若者達はかつて勝利のリーダーであった者達である。若者の苦悩の最先端にいたのは若者達である。若者は意思決定組織、IPPF委員会、そして地域理事会のメンバーとなるべきである。若者が何を必要とし、どのような活動が行なわれるべきか、それらがどのように査定され、評価されるべきかを決める際には、若者は中心的役割を果たさなくてはならない。もし、我々が可能な限り最高の結果を達成しようとするならば、一度生じてしまった問題を治そうとするよりも、問題に先んじるほうが賢明である。」(ジョルダン 若者参加者 Marwan Salah Moitah)

「我々は政府、IPPF、そして各国FPAに求める。もしあなた方がこれらの中の1つに該当するならば、基金を約束して欲しい。もし、これらに該当しないのなら、我々をドナーと結び付けて、こうした基金に我々が懇請するのを助けて欲しい。良いアイデアはあっても我々には資金が足りない。これこそが我々が求めている物である。」(ケニア 若者参加

者 Andrew Meme)

「私は出身国ペルーにおけるコミュニケーションと若者のエンパワーに関する経験をご紹介したい。私達の国には“Growing with Sexuality”というラジオプログラムがある。これは学校へ行って性教育について聞く機会のない農村地域に暮らす若者たちに届くように作られたアウトリーチプログラムであるが、IPPFからの資金援助が打ち切られてしまった。そこで私が言いたいことは、もしあなた方が助けてくれなければ、もしあなた方が私達に対する支援を続けてくれなければ、私達はプロジェクトを発展させていくことは出来ない、ということである。基本的に私が求めているのは、これまで以上の支援である。」(ペルー 若者参加者 Elizabeth Espinoza Portilla)

資金的支援と完全な参加に加えて、若者議会の参加者達は技術的なトレーニングとFPAの若者プログラムへの若者の参加を促すのに適した職場環境を求めた。例えば、若者を有給スタッフ、または一部有給のインターンとして雇い、他のスタッフと同等に扱うことは若者がFPAでFPAのために働くことを可能にし、有益であろう。

「若者がただ働くのだけではなく、コンピューターやその他の設備といった技術的資源を使って働くよう薦め、若者がこうした資源をどう活用して仕事をしたらよいのかを学ぶことができるようにすべきだ。」(オランダ 若者委員会メンバー Robin Teurlings)

FPAに対しユースフレンドリーな存在を作り出すことは若者の参加を増やすためにしなくてはならないもう1つの課題である。

「我々はFPAと若者に取り付いてしまっている汚名を取り除く必要がある。我々は若者グループに新しい名前をつけなくてはならない。」(セントルシア 若者参加者 Josephine Gregg)

#### 若者議会からIPPF総会に対する質疑

これらの質疑はすべての若者に避妊具を配布するという問題から、高齢者に対するのと同じように若者に対しても性的楽しみを権利として認めるということまで多岐に渡った。

「我々の国では、伝統や宗教によりいかなる性的楽しみも持つことは禁じられており、結婚前のいかなる

るセクシュアリティも認められていない。しかし、性的楽しみは我々の権利である。IPPFは私達がこのように喜びやセクシュアリティに対する権利を得られるように、我々の伝統や宗教的障壁に対して戦う準備が出来ているのか。」(バングラデッシュ 若者参加者 Nobonita Chowdhury)

「私が提案することは、楽しみへの権利を IPPF のセクシュアル・ライツの憲章に加えるということだ。我々はセクシュアル・ライツについて話をしており、我々の権利を定める憲章は、年齢に関わらず、すべての人間が楽しむ権利を含むべきだと思う。」(メキシコ FPA シニア代表)

他の FPA シニア代表は性的楽しみに焦点を置くことが連盟にとって役立つまたは望ましい物であるとは同意しかねる、という立場をとった。

「もしあなた方がアドボケートするこの革命、つまり若者革命が単なる性的な楽しみのためだけなら、我々が達成できることは多くないと思う。」(スーダン FPA シニア代表)

#### 若者議会に対する総会からの質疑

IPPF の地域理事会レベルで若者はすでに代表に入っているのではないか。

—これは南アジア地域に限ったことで、他の IPPF 地域理事会では行われていないし、どの国の FPA も行っていない。

「我々は一部の地域で名前だけの代表権が欲しいわけではない。FPA のすべてのレベル、地域、国際レベルにおいて、(若者の) 代表が置かれなくてはならない。」(バルバドス 若者委員会メンバー Shantal Munro)

文化的に婚姻関係の中でのみセックスが許されている国では HIV/AIDS や STD が実質的に存在しないのはなぜか、考えてみて欲しい。

「これは真実ではない。あなた方の国でもそのような病気をもった人たちが出回っているのである。人々は単に (HIV/AIDS や STD が存在するという) 事実を怖くて認められないだけなのである。」(オランダ 若者委員会メンバー Robin Teurlings)

「フィリピンにはレイプを受けている女達がいる。しかし、彼女たちは最近ではカミングアウトするようになった。なぜなら彼女たちは助けてくれる誰かがいる、と信じているからである。」(フィリピン

若者委員会メンバー Chris Penales)

もう1人の応答者は、インドは(HIV/AIDS や STD の) 問題を否定する態度や傾向があるために、急激に HIV/AIDS が蔓延する都市になってしまった、と述べた。

#### 閉会の辞：IPPF/Youth の未来

この会議中に盛り上がった勢いが、大きくなっていくことを保障するにはどうしたら良いだろうか。

「43人の若者がここに集まり、ネットワークを築いている。しかし、それはここで終わるべきではなく、継続していかななくてはならない。」(マレーシア 若者参加者 Lee Chean Wei)

「私はマレーシアからの仲間に同意する。我々は委員会設立について考えなくてはならないと思う。例えば、モザンビークには若者のための国内委員会があり、とてもうまく機能している。そして、若者のリプロダクティブ・ヘルスを扱うグループや組織の間により良い協調関係がある。地域の若者委員会を設立したらどうだろうか。」(モザンビーク 若者参加者 Estevao Marima)

若者アドボカシー運動 (Youth Advocacy Movements (YAMs)) は IPPF の西側地域で始まったプロジェクトで、他の地域にも発展させられる。この運動はその地域のほかの若者組織と結びつき、アイデアやプログラムを共有している。

「私は今日ここにいる皆さん全員に、呼び名は何であれ、若者運動なり若者組織といった組織を作り、文化や宗教に配慮して発展させていくということを実行して考えて頂きたい。」(トリニダッド 若者参加者 Ozzi Warwick)

#### 行動への要求

「あなた方は (我々若者の) 声を、視点を、そして行動への要求を聞いた。IPPF Youth は地球規模のヴィジョン (未来像) であり、若者議会の若者達は世界中から集まり、各地でこのような挑戦を実施する上での苦勞を背負っていく覚悟が出来ている。IPPF はパイオニア的運動体として設立された。今こそ再びパイオニアとなる時である。我々はすべての若者に対してリプロダクティブ・ヘルスプログラムを必要とし、いま行動する必要がある。」(フィリピン 若者委員会メンバー Chris Penales)

## 若者議会その後—未来の構築

若者議会は以下の直接的な結果を得た。

- IPPF/若者宣言は若者議会参加者によって承認された。参加者は IPPF の若者プログラムと若者のネットワークの将来のための重要な行動領域を確認するために、アイデアと経験を共有することができた。これらの行動領域は若者が若者プログラムのすべての段階で十分に参加し、FPA、IPPF、そして市民社会の意思決定レベルで完全に参加し、自分達の問題に対して効果的なアドボカシーができることを目的とする。
- IPPF/若者宣言は IPPF 総会により再検討され、早急に採択、実施されるよう推薦された。IPPF は中央理事会の決議を通じて、次のことに関わることを約束した。
  - 若者議会で発表されたように IPPF/若者宣言を採択する。
  - 若者プログラムのための基金を確保する。
  - ドナーに若者を優先事項にするよう推奨する。
  - FPA にプログラムや意思決定に若者の参加を増やすよう推奨する。
- セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス分野で活動する若者の国際的で精力的なネットワークが設定された。IPPF 中央理事会でなされた決議は IPPF が若者と若者の積極的な参加を真剣に受け止めていることの現われである。改正された管理体制により若者は若者のために開発されたプログラムを形成し導くための真の意思決定力を与えられる。この若者の積極的なネットワークは IPPF による関与を前進させるための鍵である。

プラハでの中央理事会が少なくとも IPPF の主なる管理体制の 20% を 25 歳以下の若者が占めるべきである、と奨励する Governance Task Force (管理特別委員会) の報告書を受け入れたことは好ましいことである。中央理事会は 1 つの管理理事会—各地域理事会からの 5 人の代表からなる—に置き代わられることになっている。この新しい体制の下、管理理事会に対し各地域から選出された 5 人のメンバーのうち少なくとも 1 人が 25 歳以下でなくてはならない、ということになる。

## 重要活動範囲

- アドボカシー：IPPF の若者対象の活動の姿勢を提唱する

ハーグ国際フォーラム (ICPD+5) で IPPF/若者宣言に関するワークショップを開催する。

地域コミュニティに宣言の考え方を売り込み、発展させていくための宣言地方巡業を開催する。

- ネットワーキング：他の若者向け組織との結びつきを強化する

地域及び国内の若者に関するグループを結び付けるための若者アドボカシー運動 (YAMs) を創立し、若者の問題を表明する強い綱領を提供する。

- コミュニケーションとパートナーシップ：IPPF と FPA 内の若者のために活動する人たちの間で情報と資源の共有を増進する

若年成人のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスについて相互にやり取りのできるウェブサイトを開発する。

国際及び地域の若者向けニュースレターを作成する。

- 管理：IPPF 若者委員会の構造の再考

IPPF の主なる管理構造の少なくとも 20% を 25 歳以下の若者が占めるようにする。

定例の地域若者委員会会議と、特定の問題についての特別国際会議の開催を提案する。

若者のセクシュアル・ヘルス問題に特化した専門的知識もった若者相談データベースを設置する。

- トレーニング：持続的な若者プログラムのための実用的技術

国内の YAM 設置のための地域 YAM ワークショップを開催する。

多様なグループ (例 保健分野の専門家や親) に対するワークショップを開催する。

資金調達、インターネット利用、アドボカシー、ネットワーキングといった重要分野で活動する FPA/YAM 若者スタッフに対して実用的な技術トレーニングを提供する。

## 添付 1：若者議会セッションの議事

1998年11月27日 チェコ共和国 プラハ  
ヒルトンアトリウム 会議ホール

14:30 若者議会：セッション1

開会の辞：議長 *Mr. Leatle Sihole*

IPPF/若者宣言の発表及び討論：IPPF 若者委員会による提案

- 若者宣言の紹介：Pragya Shah, Rachel Russell
- 資金運用、ネットワーキングおよびパートナーシップ：

Rachel Russell, Robin Teurlings, Ieva Briska

• プログラム：Bronwyn Rhodes, Adriana Zumaran, Chris Penales

• エンパワーメントと参加：Shantal Munro, Pragya Shah

自由討論

15:50 休憩

\* 総会はこの間に若者議会に対する質疑を書面で議長に提出できる。

16:20 若者議会：セッション2

30分間の質疑

若者議会からの質問に IPPF の名誉オフィサーが答える。

総会からの質疑

若者議会は総会からの質問に答える。

問題事項

閉会の辞：Bronwyn Rhodes,

Christopher Penales

最終決議及び進行の延会

議長

17:30 閉会

添付 2: 1998年11月プラハにて行われた総会中に通過した決議

- 決議 (A)

批准した援助国からの FPA 代表者たちは、プラハで1998年11月27日に行われた総会に対する若者議会から提案された支援の必要性を、若者委員会及び若者議会の代表と共に承認した。

援助国からの FPA 代表たちは自国の政府が政策

の変更と若者のためのプログラムの必要性を優先させるように働きかける責任を認めた。そして、中央理事会に対し、予算内に若者向けプログラムのためのしかるべき予算を指定するよう推奨した。

- 決議 (B)

我々批准国は、IPPF に若者を巻きこむ新しい戦略として、1998年総会で IPPF 会長が受諾し、若者議会により提出されたように、中央理事会に対し、若者宣言を採択するよう求める。

我々は中央理事会に、文化的違いを考慮しながら、各地域がこの若者宣言を受諾することにより確実にエンパワーされるように調査や戦略のための行動に投資することを求める。

我々は中央理事会に、若者が他の代表と同等の立場で参加できるように、地域理事会及び管理理事会に選ばれた若者が完全に支援されるための戦略を考案するよう求める。

- 決議 (決議委員会の総会報告書のオリジナル)

総会は若者議会の参加者によって表明されたように熱心な関与を歓迎する。我々はまた、FPA が IPPF の政策やプログラム開発における若者の参加を強化するために一層努力し、若者が他の代表と同じ立場で参加できるように最大限支援することを求める。

総会は FPA、地域及び国際レベルでセクシュアル・リプロダクティブヘルス・ライツの分野で若者のニーズに、政府やドナーが優先的に取り組むように推奨することを IPPF に求める。

総会は、若者議会によって総会に提出された若者宣言を検討することを中央理事会に求める。その際、確実に各地域がこの宣言を採択し、文化的違いを考慮しながら若者宣言の枠組みに沿って優先されるべきものやプログラムの目的に資金が運用されることを求める。

以下、主任研究者所属するクリニックの患者などを中心として組織した「若者委員会」が、「若者達と語る」一愛、性、避妊、妊娠、性感染症、について議論した全容を掲載した。今後の思春期保健対策の在り方に重要な示唆を与えるのではないかと研究者自身が判断した発言に下線を伏したので参考にされたい。

## 「若者達と語る」一愛、性、避妊、妊娠、性感染症

2000年8月10日に開催された、日本思春期学会プレコングレスミーティング「若者達と語る」の様子をまとめた。壇上には、11人の若者（高校生、大学生）が並び、2時間にわたり「性」「避妊」「中絶」「性感染症」などをテーマに活発な議論が展開された。司会進行は、北村邦夫、松峯寿美（産婦人科医）の両氏。

【北村】 こういう会を、前々からやりたかったんですね。

【松峯】 そうですね。

【北村】 日本思春期学会、思春期という名称が付いてるんですけども、学会そのものはいつも思春期不在、不在という言い方は乱暴でしょうけどね。

【松峯】 元思春期が。

【北村】 そう、そう。元思春期がいろいろ議論しているわけですけども、こういう機会に、やはり1度若い人たちを一同に集めて議論できないかなというの、僕の夢ではあったんです。

【松峯】 そうですね。聞いてみたいですね。

【北村】 北村でございます。コーディネーター、松峯。

【松峯】 松峯と申します。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

【北村】 それでは、会場にいらっしゃる若者たちは、私も若者という方は上がって構わないんですけども、一応名前が付いております。どうぞ、どやどやと、自分の席にお着きください。私どもが2人を選んだ若者です。不本意な方もいらっしゃるでしょうけど、どうやって選んだのかと聞きたいでしょうね、会場の方々は。

【松峯】 そうですね。本日は大学生、また高校まったただ中という17歳から21歳の男女の皆さま方に登場していただいて、忌憚のない意見を聞かせてい

ただきたいと思います。

【北村】 こういう学会に出てくる若い人たちですからね。それだけで、もうかなりバイアスが掛かっていて、ある方はきっと文部省が喜ぶような議論が展開されるんだろうなという、こういう期待を掛けてくださっている会員の方もいらっしゃるようがあります。しかし、ここにどういう方たちを招くかという件については、もうわれわれの一存にさせていただいたわけでありまして。ただ、自信を持っているのは、ここにいるすべての会員よりもはるかに若い。ここにいる会員が逆立ちをしても、今彼らにはなり得ない。

そういう意味での若者の意見として、ぜひ受け止めていただきたいなという気がするんですけども、それにしても松峯先生、最近の凶悪な事件、17歳、18歳。バットでお母さんを打って殺してしまったりとか、あるいは主婦殺し。殺してみたかったとか。5000万円の恐喝事件が学校の中で起こったり。あるいはバスジャックの問題。いろいろ取りざたされていますよね。理解できますか？ こういう事件。

【松峯】 いや、理解できません。殺される母親の立場となってみても、なんで殺されるのか理解できませんし、また実行している方々の気持ち。本当に理解できないと思います。

【北村】 打ち合わせもなく、ここに若い人たちに集まってもらったわけですけども、目の前に○と×のカードがありますよね。ちょっと皆さんに見せてやっていただけますか。じゃあ、そこから始めましょうか。最近起こっている種々さまざまな凶悪な事件。いろんなことが頭に思い浮かばれると思います。最近の若者たちは一体どうなっているのか。日本の若者たちの心に一体何が起こっているのか。しかし、今日いらっしゃる君たちが、どうですか、考えて。何となく分かるんだよね。こういう方は、○。いや、

座長2人とも分かんないんだよな。捕まるのはもう先、見えてるしなと。こういう雰囲気の人、X。どちらかを挙げていただけますでしょうか。まず、この件について、分かるという人。分からない。O、X、どちらかを挙げてください。ほう、ほう、ほう。じゃあ、ちょっとMちゃん、どう？口火を切ってくれる？分かる。マイクに限りがありますので、やりとりしてください。

キレルってどういうこと？

【M】分かるっていうのは、まずは、特に肉親に対してっていうのは、愛情がある分、自分の思いどおりにならない、自分を分かってくれない。そういうときにかっとなってしまうと、経験のあることなんですけれども、思いどおりにいかないっていうところで、本当にそこからは子供と一緒になんです。2歳、3歳の反抗期が、いやだーって、ばたばたばたってじだんだを踏む、あれと一緒に、もうそうしたら先のこととか、これはいい年してこんな人のことを殴ってけがをさせたら犯罪だよってというのは知ってるんですけど、でも肉親だからってところで甘えもあって、ついつい手が出てしまったっていうのは分かることなんですけれども、どうでしょう。手は出ません？きょうだいげんかとか、親子げんかとかで。私は1度あるんですよ。妹、実の妹なんです、もちろん。年の近い妹なんで、小さいころから仲良くやってきたつもりなんですけど、どうしても思いどおりにいかないんで、ぼこぼこにしちゃったことが17、8の時にあるんですけど。  
(笑)

【Y】でもそれは、単なるかわいいきょうだいげんかじゃない。今ニュースになっているのは、きょうだいげんかとかのかわいいレベルじゃなくて、やっぱり人殺しとか、人を自分で殺してるとかそういうレベルの問題だし。自分は今まで一人っ子として育てられていて、きょうだいげんかとかする機会もなかったし、何て言うかあんまりそうやって人とけんかをするとか争うということを逆にやらなかったから、そういうのが経験してないと突然何か自分の中でいらいらという衝動感が来た時に、自分でそれをコントロールできなくなって、もう自分で自分のことをコントロールできなくて、もう抑え切れな

くなって、気が付いたら人を殴ってたとか、自制心が利かないというか、そういう何かもう理性では抑え切れない部分の衝動のほうが強いと思うのね。

【北村】Yは、切れるっていうのはそういう感情。

【Y】だと思いますね。だから、最後の最後でできることは、もう1年ぐらい前になるんですけど、本当に何か親と口論しててどうしようもなくなった時に本当にもうそういう寸前になったんですけど、切れる寸前に。これでやったら多分やばいなと思ったんで、家から飛び出してうろろしたんで、それは避けられたんですけど。普段からやっぱりそうやって人とけんかしたりとかしてないと、結構何か現代のそういう教育とかって、けんかは駄目ですよって、人に手を上げちゃいけませんよって、そういう教育をするじゃないですか。逆にそれが子供にとってはそういう経験がない分、自分の中でそういう衝動にかられた時にどうすればいいのか、そういう対処の方法に困ると思うんです。だから、そういう面では切れるっていうのは起こりやすいと思うんです、昔に比べて。

【松峯】対処の方法を今までに学んでなかったような気がする？

【Y】やっぱり経験がないからどうしようもないっていうか、未知の領域だったっていうか。どうすればいいか分かんなかったっていうのが、ありましたね。

【I】ストレスの発散の仕方っていうか、やっぱりストレスがたまっていることが問題だと思うんですよ。自分は今までそういう経験がそんなになくて、切れるっていうことに関しての概念が僕は分からないので、僕はXを挙げたんですけど。僕は小さいころからスポーツ漬け、スポーツ大好きで常にスポーツをやっている。音楽もすごい好きで、ピアノとかバイオリンとかやって。何かあった時は、そういうものに方向を向けていく。スポーツで完全燃焼しているんで、もう家に帰ってきたらぐたっとなる。スポーツをやっていると、特に球技とかやっている人は分かると思うんだけど、バスケットとか、僕はバスケットをやってたんですけど、やっぱりチームプレー。チームの中の闘争とかっていうのもあって、そういう意味ではすごい周りとのコミュニケーションとか図れて、自分のストレスも発散できて、すごい、いい。

ただ、今の問題っていうのは、そういう切れるって人は結構引きこもりがち。引きこもりっていう話がよく最近出るけど、例えばゲームがあったり携帯電話があったりとかして、自分が外に出なくてもコミュニケーションを相手と図ることができる。だから、いざ社会に出た時に自分が社会に対応できないっていう部分が多分すごい強いと思うんだよね。それで、後、さっきYも言っていたけど、体罰のことにに関してなんだけど、体罰と教育っていうのは、今生徒に手を上げた教師がすぐに教育委員会に訴えられて首になってしまう。だから教師は手を上げられない。やっぱり行き過ぎるのは良くないけど、ある程度の体罰っていうのは、体で生徒に分かってもらうっていうのは必要なことだと思うんだけど、その辺。

【北村】 体罰まで行っちゃったけど、ちょっといい？ 16歳、17歳がこの凶悪事件の当事者としていろいろ話題になってるんですけど、今発言いただいた3人は、実は大学生なんですよね。ちょっと当事者、ジェンダーの問題を抜きにしてくださいね。呼び方、いつも親しくかかわっているやつはYなんて言えるんですけども、YS君なんて言っちゃうのはこそばゆいですけども、YS君、どうですか。この辺りの事件。高校生です。

【YS】 僕もやっぱり親とかすごいむかついたりとか、なんでそういうことを言うんだとか思うことはあるんですけど、そこで今ある事件みたいに殴ったりとかしたら、本当に取り返しがつかないことになるなっていう理性があるんで、そんなふうに切れるっていうのは、ちょっと僕は理解できないので、Xを挙げました。

【北村】 Hちゃんは、どう？

【H】 私もたまに何か自分の周りがすごい忙しくて、今受験生なんですけど、それもあって。時間の流れとかについていけなくなっちゃう時とかもあって、それで何か全部が嫌になっちゃってとか。もしいじめとかあって、それでだれも分かってくれる人がいなかったりとかして、それで自分を見失っちゃって、本当に何か犯罪を犯したりとかするのは引きこもりがちの人とかも何か自分を表現したかったりとかもあるかもしれないし、だれも分かってくれなくて、何だろう。バットで殺害しちゃった人とかも、親を殺しちゃったとかいうのも、親すら自分

のことを分かってくれなかったみたいなのが。それでパニックを起こしちゃって。

【北村】 こういう事件は、I君が言うように引きこもりの子供に限らず、ひょっとしてだれでもこういう事件を起こす危険性とか可能性がある。どう？ 僕はそう思うんだけども。Nちゃんなんか、どう？

【N】 もう本当に、それは可能性としてはだれにでもあるなっていうのはあって。何かI君がすごい健康的な話をしてくれたんだけど、絶対に彼にもその可能性は否定できないなっていうのは、本当にそれくらいだれにでもあるんじゃないかなっていう。何かちょっとした、ちょっと拒まれたとかそういうことがすごいショックになったりすることって、やっぱりあるじゃないですか。それで何かこういう行動に走ってもおかしくないなっていうぐらい感情的に制御の利かない状態って、多分だれにでもあると思うんですよ。たまたまそこでそれをするかしないかっていうのは、また別問題っていうか。

【北村】 するか、しないかっていうのは、一体どこが歯止めになるというか、どこに違いがあるわけ？

【N】 基本的に分かっていたら、予防できますよね。

【北村】 そうだね。

【N】 それはもう本当に個人の感情の中にあると思うんで、分からないんですけど。何かそんなことでっていうことで、ちゃぶ台を引っ繰り返す人とか、後はまあ。それは耐えられるけど、もっと別のこととか。何か踏み込まれたくない個人の領域って、絶対あると思うんですよ。だからもっと何て言うのかな、全体の風潮としてですけど、あんまりプライバシーを重んじるところがないから、だからこういうことになってくるんじゃないかなっていうか。個人の考えというものをあんまり尊重できていない、社会全体において。だからもっと精神分析以前に、何か慣習として付けてほしいなっていうのがありますね。

【松峯】 じゃあ、皆に聞きたいんだけど、プライバシーって今言ってたんだけど、赤ちゃんの時にっぱいを飲ませてもらって、おむつも取り替えてもらって、その時ってプライバシーも何もないよね。それで何歳ぐらいからプライバシーって、欲しいと思いますか。

【北村】 今、個人というものを大事にする社会でないという辺りからの話ですか。

【松峯】 そうですね。

【N】 私の考えで言うと、基本的には別に親が子供にもうそろそろこの子は分別が持てるだろうと思える時期。子離れをしないとか、ものすごい問題になってるじゃないですか。私はそれは大問題だと思うんですけど。親が自分の人生を振り返って、15歳の時に見た夢とかって、すごい真剣だったんだなって思えるような親だったら、絶対に15歳くらいの子供にちゃんと1人の人間として話せる環境を作ってあげられると思うんですよ。小学校高学年でしてたことが、どんなに自分が真剣だったかとか。子供っぽかったけど一生懸命だったなとか思えるんだったら、親子の間でも互いに意見を尊重できる関係って、築けると思うんですよ。大人がいろいろ昔のことを忘れ過ぎですよ。で、何か大人のほうから壁を作られちゃっている気がするんですけど。

【北村】 面白い話になりましたけど。どう、MDちゃんなんかさ。これはちょっと繰り返すんだけど、今回こういう一連の事件なんかについて、どんな印象を持ちます？

【MD】 私はつい最近のことしか、あまり覚えてなくて。このごろ、ぶちっと切れたことはないと思っていて。それは何かちょこちょこ、ちょこちょこ不快な気持ちを出す方法を知ってきたからだなと自分では思っていて。すごい切れる人って、小っちゃなことで切れるけど、その切れる人っていうのはずっと前からためていたちょこちょこ不快な気持ちの最後の部分のちょこつとした不快な気持ちで、最後の98%から100%に行く分の2%のいらいらで、今までの100%分を全部ぱっと切れちゃったっていう感じなのかなと思うので、その切れる人たちっていうのは小っちゃなところから、例えば親の顔色をうかがったりとかそういう子で、ちょこちょこ不快な気持ちとか嫌なんだっていう気持ちを出すのができない人たちなんだなと思って。

【北村】 MDちゃんは、自分の不快な気持ち、不安、不満。そういうものをどういう場で、家の中で出せたっていうこと？

【MD】 はい。例えば何かの言葉にむかついた時があったとしても、その場で、ちょっと今はむ

かついたよとか、そんな言い方はないじゃんとか、それもまた言い方がかかわってくるんですけど、その言い方を考えて不快だっていう気持ちをちょこちょこ出したら全然たまらなくなってきたと思っているので、自分では、だから。

【北村】 はあ、はあ。その時、だから、むかつくんだよと、こうやって母親に言う。父親にも時々言うんですか。その時の、母や父の態度っていうのはどう？ うるさいわね、子供のくせに。あんた、だれに育てられてると思ってるのよ。そうは来ないわけ。

【MD】 私がめっちゃくちゃなことを言ったらそうやってしかってくれるんですけど、やっぱり自分では正論と思ってぱつと言ったことは、ああそうかって、分かってくれるほうが多いなと思っています。

【北村】 こういう事件に対して、大人たちが、あるいは評論家がいろいろ評論しているのを聞く機会が多いですけどね。こういう世代から評論を聞くのもちょっと面白いなと。Aちゃん、どうですか。今のような話を含めて。

【A】 私は切れるっていうのは、多分自分の意見がちゃんと親とかにきちっと伝えられないときに切れちゃうんだと思うんですね。私はずっと幼稚園、小学校、中学校と、中学校から、自分は絶対いい子でいなきゃいけないと思って。だから親にこれは嫌なんだとか、私は中学受験をしたんですけど、私、本当はそれがすごい嫌で、だけど嫌だって親に言い出せなくて、ずっと何かためてきたんですね。だけど中学に入った時に自分で初めて自分の意見を、私はやっぱりこの中学は嫌で高校受験をしたいからっていうことを初めて親に自分の意見を伝えて言えたんです。それで自分の思ったことを親に言えたから切れてなかったけど、もしその時にそれも自分の中で押し込めてつぶしていってたら、今ごろとか、もしかしたら分かんないけど、何かそういう事件を起こしていたかもしれないなって、ちょっと今思います。

【北村】 お利口さんのままでいることを、自分自身が作ってしまう人多いよね。そして結局は親に、あるいは周囲にいる大人たちに自分の思いを向けられない。そういうものがたまりたままって。こういう凶悪な事件が一体どういう背景の中で起こったのか、僕自身も十分分析しているわけではありま

せんし、中には精神科的な疾患が根底にあって事件が起こった可能性も、もちろんあるわけでしょうけど。今の話を聞いていると、何か見えてきますよね。子供たちが切れるというが、その子供たちが自分の思いを伝える場を持っていて、持っていないというのが、かなり大きな問題なのかなと。どうですか、Yちゃん。同感ですか。

【Y】 あなたにはこれがいいのよっていうのは、すごいむかつくんですよ。幼いんですけど、1人格なんですよ。小っちゃい子も、私たちも。思考が及ばないことを、あなたにはこれがいいのよ、あなたにはこの中学がいいのよ、あなたは将来何になったほうがいいのよ、ここでこうしなさい。それがむかつくんですよ。お母さんはこういうふうにしたほうがいいと思うけど、あなたはどうしたい？ って、こうアシストするなら、アシストは欲しいんですね。まだ完成していない人格だから。ですけど、線路を敷くことに関してすごくむかついて、それが自分を理解してくれていないっていうときに、親すら理解してくれなかったっていうときに、切れちゃうのかなっていうふうに思います。ただ、私は殺したりの行動には出ないと思うので、さっきはXを挙げましたけど、切れるっていう気持ちはそこから来るのかなとは思いますが。

【北村】 私はこう思うんだけど、あなたはどうしたいの？ このやりとりっていうお話をしましたよね。これは、だけど親と子のやりとりだけじゃないよね。ここにいらっしゃる人たちはそれぞれの分野で若者たちとかかわったりする学校の先生であったり、あるいは看護系の人たちであったり、あるいは医者であったり、そういう人たちなんですけども、できてますかね、僕たち。僕たち自身が意外と子供たちに自分の価値観を押しつけて、線路作りをね。この線路にうまく乗ってくれば、あんたはきっといい、幸せな人生が待ってるのよなんていう、こういう親、あるいはこういう指導者になってしまったりすることが、ひょっとしたらあるかもしれませんね。

子どもと大人

【M】 私たちは子供たちなんですか。

【北村】 うーん。どういう意味で？ 私は人間だ

という？

【M】 そうですね、それもありますし、もちろん人格が完成していないのもあります。先生と私の差はありますよね。でも、私たちは子供ですか。子供たちって呼ばれてしまう部類に入ると、私は思っていないんですよ。私は私の考えて動いているつもりですし、少なくとも私の両親は私を子供としては扱わないことに、もうしているんですけども、一概に例えばここ、思春期学会、例えばセックスとか妊娠とか、そういうことを結構考えて動いている人たちを相手にする人たちだと思うんですけども、そういう人たちが相手の子供たちって言って対応されてしまったら、それこそむかつくんですよ。どうなんでしょう。

【北村】 どうですか。会場にいる方。○と×を挙げてください。何だかんだ言っても、やっぱり君たちは子供たちだという方は、ちょっとお手を挙げてください。子供たちのほうは、5人。いや、子供なんて言って申し訳なかった。君たちは間違いもない大人だ。ちょっと手を挙げてください。12人。意思表示ができない人は揺れてるんだ、揺れてる。

【M】 間違いがないとは言いません。私たち、間違えますよ、もちろん。でもそれは先生だって間違えうし、皆間違えうと思うんですよ。それは程度の差であって。子供たちって言われてしまったら、それこそ親の保護下であって、自分で決定してはまだいけない人たちっていうニュアンスを、私は感じてしまうんです。

【北村】 子供の定義っていうのは、あなたたちから見ると、どの部分まで入るわけ？ 子供の定義っていうのは。

【M】 私は、私の親たちが私にしてくれたことに関して言えば、兄弟がたくさんいるんですけども、その子によって大人と決める年齢がうちは違うんです。4人子供がいるんですけども、私を含めて4人いるんですけども、私は16で大人だっていうふうに、うちの両親は決めたんです。2番目の妹は、18。その子によって違うんですけど、そうしたら、それまで食べ物とか食器とかいろんなものを、大人と子供。あなたは子供だからこれでいい。

その辺はすごくはっきり区別をつけていたんです。子供のくせに何でも大人と同じことができるわけがない。その代わり義務も少ないんです。やらな

くちやいけないことも少ないんですよ。だけど大人って決められた途端に、私は高校の学費を自分で払いなさい。それはあなたが決めたこと。あなたが大人ならそれはしなさいっていう。自分で行きたいなら行きなさい。だったら自分で払いなさい。それが大人だっていうふうに教えられてきたんで。少なくとも私は今自分でいろんなことを決めていて大人だと思っているので、子供たちって言われてしまうと釈然としないものを感じるんですよ。

【北村】 どうぞ。

【I】 大人と子供に区分することに、何か大切なことがあるんですかね。ここの会自体、大人にも子供にも区分されない思春期を扱っていらっしゃるわけでしょう。

【北村】 だから手が挙がらなかったんだらうね、僕のさっきの問い掛けに対して。

【I】 そうですよ。ですから、大人っていう状態があるとして、そこになるのに、そこに行き着くのに、精神的に、経済的に、社会的にかな。段階があると思うんですよ。私たち、私は、少なくとも精神的には大人だと思います。ただ、自分に稼ぎがなかったり、社会に自分はこういう仕事をしていますっていうふうに言える職業を持っていない辺り、そこはまだ子供なんだらうと思うんですけども。だから、大人になるのに段階がある。そういうところを扱っていらっしゃる。そういうふうに、私たちをとらえてくださればいいんじゃないでしょうか。

## 高校生と性

【北村】 思春期ね。子供、大人議論はこの辺りにして、いずれにせよこういう凶悪な事件、その切れる、むかつく。どんな時、彼らがむかつくと思うのか。あるいは、どんなことで切れるのか。専門家がいらっしゃるんですけども、どうでしょうか。自分の中にある不快な思い、不安な思い、苦しみ。そういうものを幼い時から少しずつ、少しずつというか、その折々にきちっと大人たちに向ける。大人たちというのは親であったり、大人であったり、そういう人たちに向けることができた、吐き出すことができていたら、その切れるというチャンスはかなり少なくできるんじゃないだろうか。

これはもちろん結論ではないにしても、こういう

凶悪な事件が起こる背景の中に、それを受け止められない大人、あるいは自分を語れない子供。語れない「子供」だよ、まだある部分では。そういう部分があるんじゃないだろうかという、この彼らの意見。僕がまとめていいのかどうか分かりませんが、そんな感じでよろしかったわけですよ、雰囲気としては。会場にいる専門家の方で、いや、一言あるぞと。どうでしょうか。まだ始まって間もないものですから、静かでございます。

次のテーマに行かせていただきます。「パニック。17歳父、赤ちゃん殺す」というんですね。僕も非常に衝撃を受けまして、コメントなんかを求められたりしたんですけども、高校1年生ですから15歳の女の子が赤ちゃんを産む。出産をした。母親のいない家庭だったんですね。父親に対しては月経があったと言って、産んだ時に。父親も大丈夫だろうかと思いながら、娘の部屋に行ったら何か分からないものがあつた。これが胎盤だと気付くのに、さほど時間はかからなかった。こういう事件なんです。学校に行っていたはずなんですけどね。友だちも知らない。先生も知らない。

結局彼女は自分のパートナーであった17歳の男の子にこの話をし、どうしたらいいかわからないまま17歳の男の子が赤ん坊を引き取って山林に連れていき捨てた。亡くなったと。つい最近、これがさらにまた発展しましたよね。実はDNA鑑定をしたら、父親は17歳の男の子ではなかったという。援助交際をしていて、どうもその成人のおじさんたちがいたはずだというような話になったんですけど、こんな事件が実は妊娠とかセックスとか出産とか避妊とか、いろんな問題に発展できるんでしょうけど、ちょっとこの件についてどうですか。意見を求めたいんですけども、意見のある方、挙手をお願いします。

【I】 この問題は、すごいたくさん抱えていると思うんですよ。例えば、まず子供が出来てしまったという状況ですよ。子供が出来てしまったっていうことは、つまりセックスがあつたっていうことで、避妊をしていけば、少なくとも子供は、まあ確実な避妊はないので何とも言えないんですよ、この状況を見るには。ただ、避妊をしていけば赤ちゃんが出来ることはなかったっていうふうに仮定したとしたら、もし避妊をしなかった。まず避

妊の問題がありますよね。避妊の問題と、後たくさんあるんですけど、周りの人間に自分が言うことができなかつたっていうその女の子の問題。女の子の問題というよりは、それが最近の若者たちにそういう風潮になってしまっているっていう最近の社会問題ですよ。

それから後はたとえもし産んでも、そういう妊娠をしてしまっても、本当は産むことが出来る環境であれば、全然周りに気にすることなく産んで、例えばシングルマザーだとしたらシングルマザーとして、でもその子供を育てていくことができる環境が社会に整っていれば、こういった問題は防げたと思うんですよ。こういうふうにすごいたくさん、もっとももっとたくさんのいろんな問題が多分あると思うんですが、何かどこか。先生、どこかちょっと絞ってもらいたいですね。

#### 高校生のセックスについて

【北村】 それじゃあまずセックスからいこうか。高校生のセックス是非論なんて、ちょっとおじさんっぽいですけども、この件について〇、×を挙げていただきたいと思います。高校生がセックスしたっていいじゃないか、〇。やはり高校生はちょっとまらずいんじゃない？ これは、×ですね。それでは、〇か×か、どちらか挙げてください。×はお1人？ Aちゃんだけだね。ちょっと発言しなかつた高校生に、あ、2人いたね。Mちゃんもいますけども、それではJ君。

【J】 セックスをするっていうこと自体は、ちゃんと自分たちの考えを持ってしっかり避妊をするとかそういうことを考えて、しっかり自分たちの考えを持つっていうことがやっぱり一番大事なことだと思います。自分たちの考えがはっきりしているなら、自分たちの考えっていうか意思をしっかり持っているなら、別にそれはいいこと、いいことっていうか、してもいいことかなと思います。

【北村】 ちょっと「ちく」っていうけど、じゃあJ君にとって避妊って、どんなものが思い浮かびますか。

【J】 コンドームをつけたり。あまりそれ以上知らないですけど。

【北村】 15歳のセックスというか、高校生のセ

ックス。S君だね。どうですか。

【S】 いいと思いますよ。

【北村】 ちょっと君の意見を聞かせて。

【S】 でも、だったらなんで高校生はやっちゃいけないんですか、逆に。

【北村】 じゃあ、聞いてみようね。お隣のAちゃん。×を挙げましたよね。

【A】 私はやはり避妊するっていうのも百パーセントの避妊の方法はないわけだし、もしも妊娠しちゃった場合に、自分だけで解決することはできないじゃないですか、高校生じゃあ。稼いでいるわけじゃないし。おろすんだったら、もちろんお金が掛かるし。自分の行動に、好きだからっていう気持ちがあっても、やっぱり責任が持てないじゃないですか。自分だけで何とかできることじゃないから。

だから嫌だし、後、私の周りでは結構何て言うんだろう、2人が好きで、もちろん好きでセックスしてるんだろうけど、何か女の子のほうを受け身っていうのがすごい多い気がするんですよ。いや、向こうが来たからついと。そういうのって、すごい嫌だなんて思うんですよ。何かこう、私はあんまりそういう気はなかつたんだけど、男の子のほうから来たからみたいなの、そういうふうなのとか、友だちが皆やってるから、じゃあ私もやらなきゃみたいなの、そういうだれでもいいからみたいなの、そういうのとか、すごい嫌だし。

【北村】 S君、どう？ 今話を聞いて。今のほら、避妊だって百パーセントの避妊はないし。中絶するっていうのもお金もないし。これをちょっと議論しようぜ。

【S】 そうですね。(笑)でもまあそんな先のことを考えちゃ。(笑)自分のしたいことをするべきですよ、若い人は。

【北村】 え？ やりたいことをやる。後先を考えたないで？

【S】 うーん、そういう固いことは抜いて。だって、でもちゃんとコンドームつけていたら子供が出来ちゃう可能性はすごい少ないじゃないですか。そうでもないかな？

【北村】 後で教育しよう。

【S】 お願いします。(笑)

【北村】 これ、さっきの子供議論にもまたちょっと入ってくる可能性があるけど、じゃあMちゃん、

どう？ 今の。いいじゃない、好きなことしようぜ。固いこと言わないでよ。硬くなったんだから、やっちゃおうぜ。(笑) あ、それはちょっと言い過ぎですね。学会ですからね。

【M】 固いこと言わないでって、逃げるんですよ、男の子は。いや、逃げ道があるっていうだけですよね、全員が逃げるわけじゃないけれども。その辺が精神的な問題として、私はだから15歳ぐらいの時に彼氏が出来た時に、セックスももちろん考えましたよ。考えたけれども、避妊について自分が全く知らないことに気が付いて、それを勉強するのに後どれぐらいかかるかなとか、後相手の精神的なもの、自分の精神的なものが成長するのに後何年かかるかなと思ったら、少なくとも3年はかかるなと思って、3年は待ってくれて話をしたんですよ。

それは、実際3年以上かかったと私は思うんです。避妊について勉強するだけでも。まず、勉強する所がないじゃないですか。避妊について、コンドームしか知らないじゃないですか。そのほかにもっと確実な方法、コンドームって危ないんじゃない？ って思った時に、だれも教えてくれないじゃないですか。学校の保健だって、せいぜい精子がこう入って行って卵子とくっついて、ああ受精しましたって、避妊はどこに行っちゃったんだらうって感じだし。何か中途半端なうわさを信じるとコーラを入れて洗えば大丈夫みたいな、あんなうわさも、どう見ても科学的じゃないなと思って。でも正しい避妊方法って、どこで教えてくれるのって思ったんですよ。

それで結局北村先生とかに出会って、いろんな専門の話を聞いたりだとか、後はそういう専門の本はここに行けばある。ここで売っている。それすら知らなかったんですよ。だれが書いた本が正しいかって、よく売っている少年誌みたいなあんな所に書いてあるのは、うそが多いじゃないですか。読んだことありますか？ 結構笑えますよ。読んでください。

それに3年かかると思ったのと、後はセックスをした後に今みたいに、今が楽しければいいじゃんって、相手に言わせてしまう土壌を残しておくっていうのは、結局自分が痛い目に遭うなと思ったんです。そういうふうに使われた時に、じゃあ私1人で頑張るって言うほど自分も強くないなって。それが、私は高校生の間はセックスはしないほうがいいんじ

やないかと思う理由なんです。そこが、例えばもうしっかり避妊の勉強ができています。精神的にも十分強いっていうんだったら、別に構わないんですよ。高校生全員駄目っていうわけじゃないんです。個人によると思います。

【北村】 ここでまた返そうね、S君。固いこと言わないでって言ったが。

【S】 一応知ってますよ。コンドーム以外にも、ピルとかですよ。どこかしら入ってきたんですけど。(笑)

【北村】 どうですか。YS君なんか、この高校生のセックス問題。結果的にはさっきのような事件が起こる、もちろんきっかけはセックス。

### 避妊教育

【YS】 僕らはちょっと、やっぱりあふれ出るほど性欲があるんで、(笑) したいっていうのがまずあるんで、したいんですけど、やっぱりコンドームをつければ僕は大丈夫だと思っていたんですけど、コンドームじゃ駄目なんですか。

【北村】 例えば、これは日本産婦人科学会という所が調査したデータで、10代妊娠1615例。いつもしていた、時々していたという人たちが、一応避妊を実行していたという人なんです。10代妊娠ですよ。1615例の人は、全員が妊娠した人です、10代で。約83%近くの人たちが、避妊はおおむねしていたという答えをしているんです。じゃあその時に使った避妊はと問いかけると、コンドーム78.6%、膈外射精、2.6%というような結果があって、コンドームは使っていたんだけど、結果として妊娠が起こっている。こういうのが、若い人たちに限らず日本の現状かなという感じがしてですね。この議論を進めていくつもりはあまりないんですけども、事実はそのなんです。コンドームをしてれば大丈夫だろうということには、どうもならないみたいですね。現場で見ている限りにおいては。

【YS】 でも現状として高校生のセックスっていうのは多いと思うんで、やっぱり避妊方法とかをちゃんと教えてもらわないと、皆困ると思うんですけど。

【北村】 Y、どう？

【Y】 自分のバックグラウンドを言うと、自分は

帰国子女なんですよ。アメリカから帰ってきて、アメリカに10年住んだんですけど。ちょうど向こうにいて、小学校6年、中学1年の時かな。先生から紙を渡されて、そこに親の承諾書ってというのが書いてあって、今度子供たちに性教育に関する映画を見せますと。それを了承しますかって、○か×と。これを親に渡すんですけど、要するに体育館みたいな所に皆子供が集まって、セックスとは何か、妊娠とは何か、避妊とは何かっていうことを皆の前で見て、もうこういう感じで。専門家がいて、子供のほうから質問して、例えばコンドームをつけるると本当に妊娠しないんですかとか、『プレイボーイ』とかはどれくらい買ってもいいんですかみたいなそういう話なんですけど。

だから向こうだと、本当に中学生の段階で結構やはりそういうしっかりしたセックスについての知識って持つんですよ。いやが応にも。それを日本に帰って、自分は中学3年の時に日本に帰ってきたんですけど、中学3年の時にそういう避妊の勉強をしたっていう覚えがありますから、遅れてるなというのを実感しましたし、それで勉強した内容も、おたまじゃくしとまではいかなかったけど、やっぱりちょっとあいまいな、すごい具体性のないような授業だった覚えがあります。

だから結局そういうふうに授業でもちゃんと習ってないし、中学3年とか高校生のころって特に男の子はセックスに興味があるし、すごいやりたいっていう衝動に駆られるから、そうすると、やばいから一応避妊しなきゃなと思うと、手近にあるのがコンドームですよ。だってマツモトキヨシとかにも売ってるし。一番身近に買えるものはコンドーム。ピルとかはやっぱり勉強しないし、そんなに身近にあるものじゃないじゃないですか。だからどうしても今の高校生とか自分らも含めて、大学生も含めてですけど、日本を見ていると、どうしてもコンドームだけがすごいアピールされて、教育の中とかでもあんまりほかの、避妊はおろかセックスに関しても全然教育もされていないから、そういうことにうと高校生とかがたくさん出てくるんだろなと思って。

せっかくこういう場で集まって話す機会がきたから、できれば皆さんにそうやって学校、教育の団体とかの人ともそういう刺激を与えて、セックスに

関する知識を高校生とかに植えつけてあげれば、すごい役に立つんじゃないかなと思うんですけども。

【北村】 逆に何かご要望が出ちゃいましたね。どうですか。漠然とですけども、いいですか。定義しないですよ。性教育を受けたと、私は記憶がありますよ。性教育を受けた。どんな教育っていう、全然定義しません。どうぞ、そういう記憶でいいです。性教育を受けたと私は認識している。イエスカノーカ、ちょっと挙げてください。ほう、性教育を受けた。受けていない。AちゃんとS君。受けたというI君。いいですか。高校生のセックスを是認する人たちが多かったわけですけども、避妊について、日常的に役立つと思われる避妊指導を、あるいは避妊教育を受けたという、こういう認識のある人。セックスを是認する一方で、自分に役立つと思われる避妊教育を受けたという記憶は、ほとんどない。しかし、ありましたね。I君。

【I】 自分は中学生の時に、高校の時でもかなり詳しく、男子校ということもあって、たまたま先生がそういう性教育に関してすごい熱意を持ってやってらっしゃる先生だったので。高校の時というよりは中学の時のほうの話をしたほうがいいと思うんですが、自分たちの卒業する時、公立中学校だったんですけど、卒業する時に、卒業記念講演という形で性の話をさせていただきました。もちろんお医者さまの方に来ていただいて、男性に関して言うならばコンドームのつけ方。後は、つけ方とか仕方。後、セックスに関する一般知識っていうものを、結構長い時間にわたって話してもらったんですね。もちろん男性、自分、男から見ればそういうコンドームのつけ方とかっていうのは勉強になりますし、また女性から見れば相手にそういうふうにつけてもらうとか避妊をしてもらうっていうことに関してしっかり教わったので、かなり有意義なものだったと思います。

【北村】 長くないといたって、あれでしょう。講演だから1時間程度でしょう。

【I】 1、2時間ぐらいですね。

【北村】 それで、要するに身につく避妊教育を受けたと。

【I】 その後、高校の時に、結構1年間ぐらいをかけてもっと深くやっていったので、その時にに関して、それと比較してしまうとどうしてもたった短い

間だったんですけど、より実践的なものがその先生によって教わったので、短い間で、かつ興味を引く、1歩歩き出す、そのきっかけにはすごいなと思ったと思います。

【北村】 まあ受け止め側の問題。どうぞ、どうぞ。

現実をありのままに

【N】 性教育に関する質問が今2つあったんですけど、私は1つ目の質問は○なんです。性教育をちゃんと受けたっていう認識があるかという質問には、○と答えました。それで自分が効果的な避妊法を習ったかということに関しては、×を挙げました。というのも、私は中学を日本の中学、小学校も日本だったんですけど、日本で小学校、中学校を通して性教育も一応受けてきたんですね、ちゃんと。セックスをするとどうなるかとか、目に見えない部分のことばかり習ったんですけど、でも取りあえず何か人体がこう切られていて、男女が接合している時どうなっているかっていうような絵みたいなやつとかを見たりとかして、ふむふむというような状況だったんですけど。

中学の時、性病について習ったんです。私は、避妊については全然何かコンドームというものがあ  
ります程度にしか聞いてなくて。中学の時に性病について  
やったんです。梅毒とかいろいろ出てきて、こんなふうになる、  
こんなふうになるというのを習ったんですけど、それをさらにすごいグレードアップして、  
高校2年生の時にアメリカに留学してたんですけど、性病についての  
クラスを全員必修で取られるんですよ。アメリカっていうのはポルノに関  
しても局部を全開で映していいという法律になっているので、  
使う教材がインターネットのホームページだったんですけど、  
尖形コンジローム等にかかったペニスとかが写っている写真  
っていうのを。

後、お母さんがクラミアで、子供の目と鼻と口に感染して  
しまった赤ちゃんの顔の写真とか、そういうのをもうカラーで  
見せられて、しかもOHPとか何かでプロジェクターで思い切り  
映されて、大きく、教室内に10人ぐらいしか、少人数制なんで  
10人ぐらいしかいないんですけど、それにわざわざ映画を見せる  
教室があるんですけど、そこを使ってそういう授業を義務付けて  
いたんですよ。その時にそれを

見て、もう避妊以前にコンドームを使わなきゃいけない  
でしょうという、ものすごい危機感を覚えたんですよ。何か  
すごい危機教育っていうのも、あんまり良くないとは思  
うんですけど。でも何か、そこでもものすごい認識が芽生  
えて。だから避妊方法としての性教育は日本ではあんまり  
受けていなくて、でも逆にアメリカに行った時にSTDの  
予防方法としての避妊法  
っていうのを教わったんですよ。

今自分は避妊法としてはピルを使用しているんですけども、それに関してはさっき彼女が言ったように、避妊法を学ぶにはものすごく時間がかかると  
言っていたんですけど、避妊に関してはものすごく時間を  
かけて学んで使用に至ったわけなんです。何か避妊  
っていうものを、目的は避妊だけじゃなくて性病も  
予防するっていう点ではやっぱりコンドーム  
っていうものすごく有効で、男女の間でそれが使える  
関係になれるんだしたら、私は高校生のセックス  
とかも全然構わないし、教育に関して  
も使わせるだけのパンチを持った教育ができる  
んだしたら、全然もう高校生のセックスを奨励して  
問題はないと思うんですよ。

【北村】 今の話を聞いてなんですけれども、われわれが性教育、あるいは避妊教育を、性感染症教育なんかを考える時に、やっぱり恐怖教育はまずいんじゃないかなんていう議論は、現実にあるんです。でも今の雰囲気だと、いや、尖形コンジロームの絵を、外陰部をばっと見せちゃえと。あるいはこれが梅毒だという。どうですか。皆さんの意見として、そういう衝撃的、衝撃的という言い方は分からない。事実を科学的にありのままに示して、そして結局Nちゃんは、これはコンドームを使わざるを得ないぜという、こういう気持ちを持ったと言っていましたよね。これについて、どうですか。皆さんは。

【N】 だって本当に怖いんですよ。日本人の中高生はあんまり見たことがないと思うんですけど、私はコンジロームの写真を一生忘れないと思うんですけど、男の人の性器だったんですけど、性器の先っぽに穴があるじゃないですか。そこからクリトリスみたいなのが生えてるんですよ。あれは、何か出来るんですよ。恐ろしいですよ。

【北村】 じゃあちょっとここで聞いてみよう。若者たち、君たちに。いや、そのぐらい衝撃的な、言い方がいいか分かりませんよ。直接的、しかし科学

的でしょうけれども、そういうものをきちっとやっばりわれわれも見せられたらいいじゃないだろうか。イエス、ノー。全員イエスですね。会場にいらっしやる方、どうですか。恐怖教育はまずいんじゃないだろうかという考えは、意外とわれわれの中にありますよね。もっと直接的に、あるいは単刀直入に、もちろん科学的にですけども、性感染症の図を見せる。写真を見せる。こういうことから積極的にSTD予防教育を始めるべきだとお考えの方、ちょっと手を挙げてください。どうですか、じゃあ消極的な人。そうは言ってもねと。そうですか。じゃあともかく村田先生、ちょっとそこまで来てくださいますよ。ここで初めて会員の登場でございます。

【村田】 東京女子医大の村田ですが、こんなことになるとは夢にも思っていなくて、ちょっと困っているんですけども、一番心配するのは、非常にそういう健全な受け止め方をする方がいらっしやって大変安心しているんですけども、非常にそのことで怖いとか、そうでなくても最近夫婦でセックスレスとかって言うてるわけです。嫌悪感をちょっと通り越して、そういうことに関して危機感、危機感というか何て言うんでしょうか。もう要するにお2人であることが嫌だとか、そういうことをすることが嫌だとか。

そういう感覚をあまり小さいというか、また言葉でしかられるかもしれませんが、さっき言われたように非常にフレッシュな感覚でいる時にたたきつけて、これはさっき言われたように、スウェットリング・ティーチングというのも非常に効果的な方法でありますし、われわれが子供のころは、今こんな所にいらっしやらなくても、ろう人形とか、あるいは衛生教育何とか博覧会っていうのは、みんなそれが並んでいたわけです。子供でも見ましたけども。相当、非常に何かこう多くの子供さん、しかも今の話を聞いていると年齢が小さいところにそういうことを持ってこいというふうな意見のように聞くと、ちょっと私の立場としては大変心配だなというので、消極論で手を挙げました。

【北村】 私の立場を踏まえて、どうぞ、ご意見を。ちょっとYちゃん、どうですか。この件について。性感染症。あまりにも直接的な情報を提供したことで、セックスレス。セックスに向かえなくなっちゃうんじゃないだろうかという。あるいはそれがトラ

ウマになって、人間関係が非常にゆがんでしまうんじゃないだろうかという、こういう懸念があると、私は今、村田先生の意見を理解したんですけども。

【Y】 まず、高校2年はそんなに小さいですかね。

【村田】 いや、小さい、大きいとかじゃなくて、さっき言われたように、こういうことは、こういうことに関心を持つ非常にフレッシュな時期にやったほうが効果的だというふうに言われたので、年齢が大きい、小さいということではなくて、こういう問題に関心を持ち始めた時に、それは年齢が大きいとか小さいとかとは別問題であって、高校2年だとか。それまでの準備があればまた別ですけど、何か聞いていると、最初の段階からそういうふうな導入があったほうがいいんじゃないかっていうふうにちょっと聞いたもんですから、心配しているわけです。

【Y】 そこだけの教育じゃなければ、いいんじゃないでしょうか。昔は純潔。

【村田】 もちろん、そういう前提条件があれば、それはそれとして受け入れていいと思います。すべての教育は、そういうものだと思うんですけども、ちょっと話を聞いていて、そのような、最初申し上げたような印象を受けたものですから。

【北村】 今の、どうですか。いや、それが人間関係がゆがむことにならないだろうか。この人もひょっとして見えないけど尖形コンジロームを持っているんじゃないだろうか、クラミジアがあるんじゃないだろうか。Hちゃんなんか、どうですか。今そういう懸念を村田先生が発言されたんだと思いますけど。だからそういう意味では、少しちょっと控えた教育にせざるを得ない。

【H】 でも、早い子は小学生の高学年とか中学校とかで、もうそういうことに興味を持って、したいとか思う子がいるわけじゃないですか。それで、そういうことを教えないうちに、もうそういうふうに、大人が真実をちゃんと教えないで隠したままだと、分からないままでそういうことが行われちゃったりとかして、そうしたらもう後で取り返しがつかないことになるじゃないですか。知らないでそういうふうにかかっちゃったら、それは自分でもちょっと悔やんでも悔やみきれないというものもあるし。

【北村】 要するに、取り越し苦労だよと。知ることが大事であって、そういう病気などを直接的に見

せられたからといって、人間関係がまずくなったりセックスレスになったりなんていうことはないよと。

【H】 それはほかにもちゃんとした、もう全部それだけじゃなくて、さっきも言ったみたいにちゃんとほかのことも教育して、それでちゃんと真実を分かせないと。隠すのは、やっぱりいけないと思います。

【北村】 そう言われてるんですけどね。会場の方たち1人1人に言ってるんですよ。隠すのはいけない。教えておいてくれ。どうですか、YS君。

【YS】 積極的に直接的にやる性教育で嫌悪感とかセックスレスになるかもしれないというのもあるかもしれないんですけど、それよりも性病とか中学生、高校生が妊娠しちゃうことのほうが大きな問題だと思うんで、そういうリスクはあるかもしれないけど、そういう教育はしたほうが良いと思います。

【北村】 これ、どうですか。どうぞ、どうぞ。

#### 氾濫する性情報をどう受け止めるか

【I】 僕もそう思うんですよ。現状を考えると、セックスの若年化というのはやっぱり進んでると思うし、昔に比べれば、それはもう現状としてあるから、本当に早い人は小学校高学年とか中学校へ入って経験する人も、もう結構ざらにいるわけですよ。僕がすごく怖いと思うのは、メディアの問題が結構あって、例えば男の子の場合だと多分ここにいる男の人は皆見たことがあると思うけど、アダルトビデオとか、俗に言うエロ本みたいなものを簡単に購入できるし、コンビニに行けばいくらでも購入できる。

そういう本には、間違っただ知識が書いてある。でもそれが本当のセックスだと思って、例えばコンドームをしないでセックスをする。射精をする時は相手の女性の胸に射精するとか、そういう訳のわからないことが当たり前となっている時代だと思うんですよ。そういうのを今の大人たちは、今の若い者はって言うけど、それは逃げだだと思うんですよ。それを受け入れて、それをどういうふうに変えていくかというのが問題だから。

だからその問題を変えていくには、まずそういう変なメディアに対抗するには、メディアっていう

のはやはり収益っていう問題が絡んでくるから、絶対そういうことを興味を引くようなことを書き続けていけばそういうふうになるわけです。いいわけですよ、それでも、でも教育的な立場からいけば、そういうのは絶対問題だから、そういうメディアに対抗するには若い年齢から、小学校ぐらいからのしっかりした教育、そういう知識が入る前に、先に正確な知識を与えることが重要だと。

【北村】 情報を提供することを恐れる以前に、実はメディアからの影響を相当受けているのだと。そのエロ・グロというか、それはそういう尖形コンジロームのペニスや尖形コンジロームの性器を見せられる以上に、もっと大きな影響をわれわれに及ぼしている。でも、S君、本当にアダルトビデオを見て、あれがセックスだと思います？

【S】 それはいいですね。いいです。

【北村】 それはいいと言えるのは、どういう。学習があるのですか。

【S】 いいんですけど、でもやっぱりあれは見る人が面白いっていうか、それはやっぱり演出してるじゃないですか。友だちとかからの話、親とかは話してくれないんですけど、そんな。小学校も私立だったんで、性教育はなかったんですよ。だからよくわかんなかったけど、でも友だちとかと話していると、そういう情報がいっぱい入ってくるから、やっぱりあれは普通じゃないねって。(笑)

【北村】 あれは普通じゃない。MDちゃんはどう？ アダルトビデオ。

【MD】 私は見たことがないんですけど、まず話が戻っちゃうんですけど、隠されると反対にすごく知りたくなって、興味がわいてくる。うちは結構、何そんなもの見てるのよとか、見てたところを見つけたとかじゃないんですけど、そういうのをあんまりいいと思わない家庭っていうか、そういう感じ

【北村】 普通はそうなんだよ。お宅だけじゃない。

【MD】 そうですか。(笑) で、どこで、じゃあどうしようと思った時に、学校の性教育があったと思っても、学校の先生も結構固い先生ばっかで、1歩置いて言ってるんですよ。例えば避妊だったら、これをこうしてこうするとこうなりますとか、何かすごく固くて。例えばそれがすごい自分の実践みたいに、これはこうするんだよとか、そういうんだっ